

歌劇

K・527 全2幕
(イタリア語原語上演/日本語字幕付)

作曲：W.A.モーツァルト
 台本：L.ダ・ポンテ
 指揮：秋山 和慶
 演出：中村 敬一
 管弦楽：国立音楽大学オーケストラ
 合唱：国立音楽大学合唱団

Staff

声楽指導：岩森美里／大倉由紀枝
 黒田 博／澤畑恵美／福井 敬
 原語指導：森田 学
 合唱指揮：佐藤 宏
 音楽スタッフ：松井和彦／相田久美子
 源田泰子／篠原明子／田村ルリ
 藤川志保／旋間郁子
 振付：中島伸欣
 装置：鈴木俊朗
 衣裳：半田悦子
 照明：山口 暁
 舞台監督：徳山弘毅
 演出助手・字幕製作：古川真紀

Cast

	10月15日	10月16日
ドン・ジョヴァンニ	近藤 圭	村松恒矢
レポレッロ	大川 博	大島嘉仁
ドン・オッターヴォ	高柳 圭	吉田 連
ドンナ・アンナ	相楽和子	藤原千晶
ドンナ・エルヴィーラ	1幕 西村知花子 2幕 戸森冨耶	内田千陽
ツェルリーナ	浅田真理子	三浦 梓
マゼット	高田智士	小山晃平
騎士長	狩野賢一	狩野賢一

2016 10/15(土)・16(日) 午後2時開演
 (午後1時15分開場)

国立音楽大学講堂大ホール 西武拝島線／多摩都市モノレール
 「玉川上水」駅下車徒歩7分
 ※演奏会当日は学生駐車場を無料でご利用いただけます。

S席：¥3,000 / A席：¥2,000 (全席指定) 7月22日(金)発売予定

- ★やむを得ない事情により出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ★未就学児童のご入場、ご同伴はご遠慮ください。
- ★開演しますと、お席にお座りいただけない場合もございます。あらかじめご了承ください。
- ★入場料収入の一部は本学の奨学制度充実のための資金として、活用させていただきます。

チケット取扱

チケットぴあ <http://pia.jp/> 0570-02-9999
 セブンイレブン、サークルKサンクス、チケットぴあ店舗 (Pコード:303-190)
 国立音楽大学書籍売店(宮地楽器) 042-537-8200
 宮地楽器ららぽーと立川立飛店 042-540-6636
 宮地楽器小金井店ショールーム 042-385-5585



大学院オペラ「ドン・ジョヴァンニ」によせて

安田 和信 (国立音楽大学講師)

国立音楽大学大学院がお届けする秋のオペラ公演は、大学主催のイベントの中でも華やかで規模も大きいものです。キャストは、大学院音楽研究科声楽専攻オペラコースに在籍する2年生が中心。歌曲コースの学生や若い修了生たちも助演します。学生たちは大学院の入学時からこのオペラ公演に向けて入念に準備をしています。

自分の役柄の歌をしっかりと歌うだけに留まらず、重唱では仲間たちとのチームワークが求められます。指揮者の先生やオーケストラとのコラボレーションにも意を払わなければなりません。音楽的な洗練とともに、演出の先生のご指導による演出への深い理解と、それを実現するための演技をマスターすることも不可欠です。オペラはまさに総合芸術。大学院に学ぶ学生たちはオペラ公演の現場を初めて肌で感じ、歌手の「卵」として、巣立っていくのです。

大学院オペラは、学生たちの研鑽が生み出す成果を披露する場であるという点で、確かに一般のオペラ公演とは異なる面もあります。まさに「若い」からこそ持ちうるエネルギーやパワー、ひたむきさという掛け替えのない宝がそこにはあるのです。宝は長い時間をかけて磨き上げられ、本番の舞台にかけられます。他では得難い感動が生み出されるに違いないでしょう。

今年の演目はW.A.モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》(1787年、プラハ初演)。スペインに端を発する好色漢の伝説をもとにしたオペラです。ウィーンの宮廷劇場で初演された前作の《フィガロの結婚》(1786年)と次作の《コジ・ファン・トゥッテ》(1790年)等と同じく、コミカルな内容を持った「オペラ・ブッフ」の系列に属す作品ですが、登場人物たちが皆、喜怒哀楽の感情を表出し、深みのある人間ドラマが展開

されるのは、ただの「お笑い」に留まらない「オペラ・ブッフ」の醍醐味と言えるでしょう。さらに《ドン・ジョヴァンニ》の場合は、主人公ドン・ジョヴァンニが犯す殺人、さらには彼自身の破滅によって感情の起伏は極限にまで大きくなります。18世紀後半の古典派オペラの世界においてまさしくユニークな物語であり、音楽なのです。

モーツァルトの音楽は、殺人や破滅の場面を本当にリアルに作曲しています。こうした恐ろしい情景は、しかし対比的な内容とセットになってこそ際立つというもの。幕開けとともに、ドン・ジョヴァンニの従者レポレッロは主人への愚痴をコミカルに吐露しますが、すぐに主人が騎士長の娘ドンナ・アンナを誘惑する場面へと切り替わり、最終的にはドン・ジョヴァンニと騎士長の決闘となって、騎士長の死へ繋がっていきます。

ドン・ジョヴァンニはその後女性を誘惑を止めず、農民の娘ツェルリーナ等にも甘い言葉を投げかけますが、彼を追いかけてきたドンナ・エルヴィーラによって邪魔されます。レポレッロが面白おかしく主人の「戦績」を歌う有名な「カタログの歌」とは裏腹に、誘惑はいずれも巧く行きません。むしろドンナ・アンナの許嫁ドン・オッターヴィオ、ツェルリーナの恋人マゼットと、どんどん敵が増えていきます。そして、騎士長の石像を晩餐に誘ったのが運の付き、本当にやってきた騎士長の亡霊によって破滅させられるのです。

モーツァルトほど、音楽によってドラマを描く才能を与えられた作曲家はいない——《ドン・ジョヴァンニ》はこう確信できる作品です。是非、本公演でこの確信を共有していただければと思っています。

秋山 和慶 Akiyama Kazuyoshi

1941年生まれ。故斎藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、トロント響副指揮者、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキース響音楽監督を歴任。サンフランシスコ響、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、ロイヤル・フィル、NDR北ドイツ放送響、ケルン放送響、スイス・ロマン管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演している。

これまでに第6回サントリー音楽賞(1975年)、芸術選奨文部大臣賞(1995年)、大阪府民劇場賞(1989年)、大阪芸術賞(1991年)、第36回川崎市文化賞(2007年)、広島市民賞(2008年)をはじめ、東京響とともに毎日芸術賞(1994年)、第8回京都音楽賞大賞(1993年)、モービル音楽賞(1996年)、第29回サントリー音楽賞(1997年)を受賞。2001年に紫綬褒章、2011年には旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞(広島)、徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金特別賞を受賞。

2014年指揮者生活50年を迎え、2015年2月には回想録「ところで、きょう指揮したのは?」(共著/アルテスパブリッシング刊)を出版した。

現在、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団音楽監督/常任指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団アーティスティック・ディレクター/プリンシパル・コンダクターを務めるほか、洗足学園音楽大学教授として後進の指導に当たっている。



中村 敬一 Nakamura Keiichi

オペラ演出家。

1957年東京に生まれる。はじめ、武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑽を積む。89年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版「フィガロの結婚」、二期会公演「ドン・ジョヴァンニ」「ボッペアの戴冠」で、高い評価を得、続く二期会公演「三部作」、東京室内歌劇場公演「ヒロシマのオルフェ」、日生劇場公演「笠地蔵・北風と太陽」で、演出力が絶賛され、95年ジローオペラ新人賞を受賞する。また、2000年には新国立劇場デビューとなった「沈黙」が、高く評価された。01年ザ・カレッジ・オペラハウス公演「ヒロシマのオルフェ」で大阪舞台芸術奨励賞を受賞。また、オペラの台本も手がけ、02年国民文化祭鳥取で宮沢賢治原作、新倉健作曲「ボラーノの広場」の台本と演出を担当し高評を得ている。音楽的な視点と豊かな感性による舞台づくりは広く認められ、また若い声楽家の指導、オペラの普及に尽力している。

国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。



15日(土)



ドン・ジョヴァンニ
近藤 圭



レポレッロ
大川 博



ドン・オッターヴィオ
高柳 圭



ドン・ジョヴァンニ
村松 恒矢



レポレッロ
大島 嘉仁



ドン・オッターヴィオ
吉田 連



ドンナ・アンナ
相楽 和子



ドンナ・エルヴィーラ
1幕 西村 知花子



ドンナ・エルヴィーラ
2幕 戸森 冨耶



ドンナ・アンナ
藤原 千晶



ドンナ・エルヴィーラ
内田 千陽



ツェルリーナ
浅田 真理子



マゼット
高田 智士



騎士長
狩野 賢一



ツェルリーナ
三浦 梓



マゼット
小山 晃平



騎士長
狩野 賢一

16日(日)

〔座席表〕

